

地区の特徴

中間地域

水稲

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

- 日本の棚田百選認定を契機に、地域住民が「稲倉の棚田」の持つ多面的価値を再認識。
- 中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金の活用により、棚田保全活動への住民参加を促進。
- 県営中山間地域総合整備事業により、誘客イベントの開催を可能とする管理棟など条件整備。
- 棚田地域振興法による指定を契機とした取組の拡大。

### 取組前

#### 農地の荒廃化

【荒廃農地】 2 ha (全体の1/4)  
【作目】 水稲

#### 保全活動に参加する人手不足

【保全活動参加者】 約30人  
【オーナー制度契約者数】 -

#### 多面的機能の活用

【観光来客数】 0人

- ・ 傾斜が急であることから、基盤整備が進まず、荒廃農地が拡大
- ・ 農業従事者の高齢化により、地元集落だけでは農地の維持が困難

### 取組内容

#### 保全活動の開始

- 中山間地域直接支払交付金、多面的機能支払交付金を活用し、保全活動の取組を拡大
- 棚田オーナー制度の開始 (H18~)
- 県営中山間地域総合整備事業により、農村交流館、駐車場、展望台の整備など、オーナー制度の基盤づくり (H26~)

#### 新しいアイデアの導入

- 酒米オーナー制度 (H29~) 自然派オーナー制度※ (R2~) により、新たなオーナーを開拓
  - 保全活動を支援する企業との「棚田パートナーシップ協定」の締結 (R2~)
  - 近隣に設置するクラインガルテン契約者との提携の模索 (R2~)
- ※栽培期間中に化学合成農薬や化学肥料を使用せず、自家消費米を生産

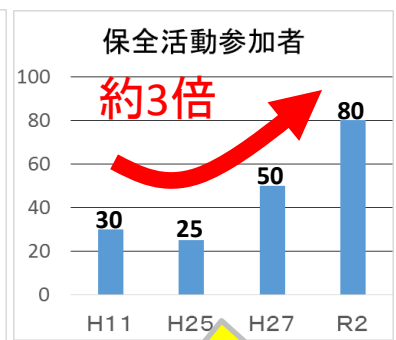
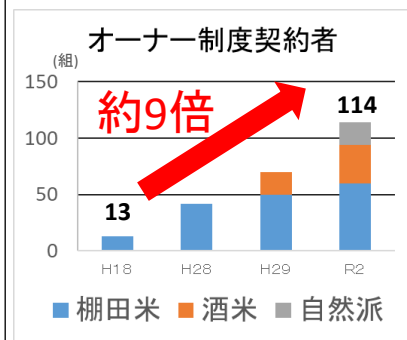
#### 新しい魅力の開発・提案

- 観光（鑑賞型）
  - ・ 幻想的な「ほたる火まつり」(H17~) や「棚田イルミネーション」(H28~)
- 観光（参加型）
  - ・ 世界初の棚田CAMP (H29~)
  - ・ 「棚田アドベンチャーガイド」「イーグルフライト」による体験型イベント
  - ・ 松明を灯す「ししおどし」(R2~)

### 取組後

#### 地域にやりがいをもたらす取組の成果

【荒廃農地】 0 ha  
【作目】 水稲(主食用米、酒米)  
【保全活動参加者】 約80人  
【オーナー制度契約者数】 114組  
【観光来客数】 20,569人/年(R元)  
(上田市 調べ R2.9)



#### これからの展開

- 棚田の新たな魅力探しと研磨
  - ・ 地域企業との連携による相互価値の創出
  - ・ 棚田にできる地域貢献探し
- 地域活性化を生む保全活動の展開
  - ・ 地域も楽しむイベントの開催
  - ・ 地域のやりがいにつながる来訪者のアップ
  - ・ 保全活動の収入源の確保

H26 農村交流館の完成

稲倉の棚田HP  
<https://inaguranotanada.jimdo.com/>



### ◆ 誰がどのように・・・？

保全委員会や豊殿地区自治会連合会等が中心となり、ワークショップを5回開催。決定した詳細な整備方針に基づき基盤整備と併せて交流施設の整備を行い、農地の保全、地域活性化を推進

### ☆リレー栽培による規模拡大

菅平高原(標高1300m)と殿城地区(標高700m)の標高差を活かしたレタスのリレー栽培で生産規模を拡大し、販売高が約5,000万円増加

荒廃農地を再生し、担い手に集積

中山間地域等直接支払交付金の活用(H12～)

### きっかけ

H11に棚田百選に認定されたことから、集落全体で「子どもの頃の棚田を取り戻したい」という想いが強まる

### Step 1 (H12～)

#### 棚田保全活動の開始

- 自治会が中心となった「稲倉の保全と活性化をすすめる会」を設立し復田に取り組む
- H15にJAや行政等の関連団体を統合し、現在の「稲倉の棚田保全委員会」を結成

### Step 2 (H23～)

#### 中山間地域総合整備事業の導入

- 農業用水の安定確保や、不足する高原レタスほ場を確保するための荒廃農地の再生と併せ、棚田保全のため交流施設の建設を事業化
- 殿城地区の将来ビジョンについて地域で話し合いを重ね、棚田百選の「稲倉の棚田」を拠点とした地域活性化を図ることを決定

### Step 3 (H26～)

#### 棚田保全の拠点施設の完成

- 「稲倉の里農村交流館」(交流施設基盤整備)が完成し、都市農村交流の拠点施設になる
- 多目的広場、駐車場の設置により、棚田オーナーを迎え入れやすい体制を整備

多面的機能支払交付金による維持活動

### Step 4 (H27～)

#### 新たな人材活力の注入 ～地域おこし協力隊員の配置～

- 上田市が、稲倉の棚田専任の地域おこし協力隊員を配置
- 隊員を中心に、ホームページやSNS、動画を活用した情報を積極的に発信
- 棚田CAMPなど、斬新なアイデアで様々な取組がスタート

### ☆地域おこし協力隊を活用した地域活性化

基盤整備と交流施設の完成後、市が専任の地域おこし協力隊員を配置し、棚田での様々なイベントがスタートしたことで、さらなる地域活性化を推進

多目的広場(見晴台)



### 中山間地域総合整備事業で受入れ体制の条件整備

農村交流館



### 参加型イベントで収入を確保

参加型イベント「棚田CAMP」



参加型イベント「ししおどし」の試行実施



### 将来に向けて

- ☑ オーナー制、体験学習参加者の拡大
- ☑ 新たな参加型誘客イベントの開発・実施
- ☑ 活動に賛同する地域企業との連携拡大
- ☑ 保全活動継続のための収入源の確保

### 今後の展望

### Step 5 (R2～)

#### 棚田地域振興協議会として新たな取組を模索・発展

- 稲倉の棚田地域振興協議会を設立
- 岡崎酒造(株)との棚田パートナーシップ協定を締結し、酒米オーナー制を拡大
- R2年度に中山間地域総合整備事業等でクラインガルテンを造成。滞在型の都市農村交流の拡大を期待

農作業体験学習受入れ人数の年間合計が500名を超える。(H29)

棚田地域振興緊急対策交付金で試行した取組を継続